

松浪地区まちぢから協議会／箱根研修会午後の部「コミセン関連」議事記録

日時：2016年2月17日14時00分～15時40分

場所：箱根

2016.03.20 平松（記）

大森：

- ・松浪地区ではまちぢから協議会が指定管理者、これは茅ヶ崎市ではじめてのケース。
- ・従来はコミセン設立時に設置されたコミセン管理運営委員会が指定管理者となっていた。
- ・平成24年ごろから新たな地域コミュニティの取り組みが始まり、松浪地区ではまちぢから協議会が【コミセン管理運営＋地域全体の課題の取組む組織】を担うことになり、まちぢから協議会による初めてのコミセンの管理運営が始まった。ここにいる方はまちぢから協議会の委員さんなので、皆様によってコミセンの管理運営が行われているのです
- ・実際のコミセン管理運営を説明します。館全体の保守管理、修繕、清掃、警備、保守点検、など非常に多くの業務がある。4月から条例施行でまちぢから協議会は【地域課題の取組とコミセン管理運営】という2大業務を担うことになる。
- ・この1年まちぢから協議会は指定管理者になって、主に役員が担って経験を積んだ。問い合わせや苦情もあり、役員に負担が集中していた。
- ・地域集会施設の運営主体に関して。
コミセン設置趣旨から言って地区ごとに求められる機能は違ってくる。市直営での画一的な管理を排して地域住民による効率的／効果的な管理運営を目指して平成16年から指定管理者制度を導入し、地域の皆さんによる管理運営が行われてきている。管理運営委員会の構成は、例えば浜須賀、小出、では地域の大きな団体が管理運営委員会を構成している。
- ・管理運営委員会とまちぢから協議会では違うが、各団体が地域の面的なカバーすることに違いはない。管理運営委員会はコミセン運営を通して地域住民の連帯感の醸成のみが目的。まちぢから協議会はもっと広い地域経営の主体、地域課題の解決に取り組む総合性を持った団体だから団体数も多く網羅している。もう一点、地域力アップ、担い手不足の解消のため公募や部会などを導入している。まちぢからの活動は住民すべてが対象。民主性、公共性をより強く求められる団体である。
- ・まちぢから協議会が管理運営主体となるメリット。
地域住民の交流を促すコミュニティづくりの基盤、地域自治の向上が期待できる。
地域住民としても、住民が利益を享受する機会が増える。
誰もが気軽に立ち寄れる場でまちぢから協議会が活動する、事業や催しに参加しやすい。
コミセンが情報発信基地ともなる。
生活上必要な情報を得やすくなる。
住民はまちぢからの全活動への参加が可能、組織化が想定される部会への参加が可能。
利用者も施設をつくりあげる当事者となって活躍が可能になる。
利用者：管理者だったが、今後は部会に参加、利用者目線での施設づくり、運営が可能、

課題もあり、役員への負担の集中、全員で分担と言っても機動性も必要。

植松：現状の具体的説明をする。清掃などの委託業務は11コミセンとの連携あるが、年間指定管理料が1600～1700万円、事務員9人雇用給料が大半、会計もそれだけの金を動かすので大変、大類さんがまちぢから協議会、松井さんコミセンで手分けしている。

小野江：多くの業者が植松さんと委託契約結んでいる。牧島さんは毎日コミセンで状態把握。事務員はこの地区在住の方から面接などで選考し、コミセンと浪っこを担当している。

朝9時から夜9時までオープンしているので牧島さんも並大抵ではない。

牧島：1年間やってきたが大きなトラブルなかった。繰り返しになるが事務所がないために色々なことをフリースペースで処理している。契約書など書類の管理がバラバラになっている。私の自宅の机の中にもある。必要な時に必要な書類が出せない状況。館の日常運営はこなせているが、今後はマイナンバーの管理も必要。保管場所と作業場所を作ること考えないとこの先はアブナイ。今まで出来ていたけど、今後また新しい書類が生まれる。誰かに引き継ぐとしてもそのあたりをはっきりさせて引き継ぎたい。

小野江：運営も大変、毎月コミセンの運営に関して会議しているが毎回そこで十幾つ項目の課題が出てくる、それに対する対応、行政との調整などなど、、。館運営上の苦情や要望も出てくる。牧島さんが毎日いないと業務が滞る。会計も細々した金の出し入れが多い。

トイレトペーパーの購入から清掃道具から印刷機まで、、ものすごい量がある。

牧島：コミカフェも中東さん奮闘。来年度どうするか。

広瀬：役員の役割を簡単に説明してほしい。

松井：会長以下7名でコミセン管理運営している。代表として牧島さんに館長してもらい私が会計、単位自治会とは桁が違う額だが、一年はなんとかやってきた。委託業務の入出金が毎月あり、銀行口座の開設と管理。人件費は市からの枠に収める努力している。事務方は月曜日などの休日出勤が毎月2時間程度ある。

広瀬：総枠の支出はどうか。

松井：本日資料持っていないが人件費500万？、清掃月20万、警備、空調保守、電気設備、消防関係、、、エレベーター、防犯カメラ、印刷機とコピー機は有料使用料で収入。

小野江：余裕のある金はない。役員は完全なボランティア。事業費は70万あるが少しづつ使っている。

X：電気代光熱費は？

小野江：すべて1800万円に入っている。こまめに電気消したりしている。

松井：上下水道、光熱費などは包括支援センターなどと各施設で面積案分している。

植松：残金は市に返却することになるので役員報酬は現在ペンディングしている。

今後この委員30人でコミセンを管理するのは困難だ。きちんとした組織にして引き継ぎたい。館長や会計も人数が多くあるのはかえってよくない。少数で専門的にやりたい。

それがコミセン部会のA、B案。

大森：Aは館長と会計が部会長で事務員が部会員、植松さんとは相談関係。今までと違うの

は事務員が部会員で管理運営に携わる点。今までの事務員は役員の決定を実行しフィードバックしていた。相談があれば月1回のMTGで出すか、館長の判断を仰ぐ。Bは事務員は従来のもままで、館長と会計プラス皆様から数名で現役員数程度として運営する。

植松：他館では常任委員会の設置もあるし、Aのモデファイ、Bのモデファイもありうる。運営委員全員が担当だが実際に動くのは数名、運営委員会の関係をどうするかの問題。本日A、Bを決めるわけではないが、総会までに方向を決められればと思っている。

小野江：みなさんボランティアだが、カフェ部会は時間給300円。事務員は雇用しているので時間給920円、運営費用は60万円が計上されているが現在は使っていない。有償無償を協議会の中の部でどういう位置付けにするか難しい。仕事量が多いから有償なのか？コミセン管理だから有償なのか？市民安全部や防災部は無償？そのあたりを含めて議論したい。部会長は資料作成に時間かかっている、牧島さんや会計は多大な時間を使っている、みなさんどう考えますか。

北村：A案、事務員に権限移譲して任せる、そういうことですか？

責任増えるのに報酬は増やさないの？A案がいいように思う。

植松：責任者は事務長であるので事務員への権限移譲とはならないと思う。

小野江：事務員を雇用するときに職務範囲を決めている。これから変更するなら職務範囲を変更する承諾を得なければならない。そんな責任被りたくないと言われるかも。

植松：この話、まだ決めていないので事務員さんには話さないください。

松井：事務員さんにはコミセン日より制作やイベントも任せている。皆さんやる気もあって優秀なので助かっている。仕事の性質上常に忙しいわけではなく、時間が取れることもあるからそこでやってもらっている。

平松：委員は団体代表だから実質的な代表責任者、その方がコミセンの責任者も兼ねることになる。無理ではないか。他にいい案があるわけではないのだが、、、。

X：事務員9名、普通の会社で言えば、その9名の中の誰かが統括するイメージだが。

牧島：3名は男で夜間勤務、6人女は子どもの家でも仕事、9人が違う条件で働いている。

小野江：今は常勤者を置けない。週一人最大20時間以内としている。責任者を置くとすればその方が常駐していなければならない。

植松：主に税金対策を含めて給与を決めている。

牧島：事務責任者は自治会長でなくフリーの方がいい。自治会長なら任期で交代となる。

中東：牧島さんが自治会長やめれば専任館長となって部会長となって委員になればいい。

平松：この3年の経験で自治会長が館長を兼務するのは無理と分かってきたのだから、

植松：交代がメリットになる面もある。万年館長で独裁化することは好ましくない。

牧島：館長の任期を決めればいい。自治会長は1年で交代もあるから、専任の方がいい。

大森：ある館では事務長は専任で頼んでいる。書類整理など、報告書作成も。

小野江：総額が60万円しかない。

平松：今はそうかもしれないが、予算は今回の経験によって必要額が分かってくるのだから、

実態に合った額をそこであらためて要求すべきではないか。実態にあった予算とすべき。

植松：市がそれに答えるかどうかは別だ。

広瀬：この議案はここで議決しなければならぬの？本日の議論を踏まえて再度提案してもらえればどうでしょうか

植松：今回はコミセン部会の設立を承認してもらえればいい。

小野江：そろそろ終わります。もう一度ざっと意見を言ってください。

刈間：こういう協議会はボランティアが前提で、それを詰めていくとどこまで行っても苦しい。専門的な仕事が出てくるし、当然それに対する報酬も必要。最初の一年でそれらについても分かってきた。利益が目的ではないが何か動けば利益が発生する場合もある。収入によって賄いを得ることも可能。来年度の計画に織り込んでいくのが建設的ではないか。

松井：72万円が役員報酬で計上されているが手を付けていない。一般の人がコミセン部会に入れば代償がもらえるとなるのか。そういう方が現れるとギクシャクする。

刈間：コミセン部会自体は安全部会と同じですから費用の発生はない。この中にコミセン運用部門があってそこで専門性のある仕事で費用が発生する。責任持つのは部会で、部長なりが責任を持つ。

小野江：カフェ部会も同じ。部会としては正副部長だけにしておいて部員ではなく、カフェチームとして別組織で費用の発生するのがいいかも。

中東：皆さん、はじめはボランティアと聞いていたのでお金がもらえるだけでうれしい。

小野江：金がもらえるとって参画した方はすでに離れて行った。そうでない方が僅かなお金で生きがいを見つけて働いている。その温度差が大きい。

平松：市役所は賃金でやっている、定常的な仕事。我々ボランティアはお金でなく、時間を供出している。例えば100時間のうち5時間を供出。それは定常的な仕事ではない。定常的な仕事は事務員さんで有償。仕事が定常的か非定常的かで分けられないか。

北村：事務所問題は怎么样了？OK出た？是非とも必要だろう。

松井：特に確定申告でマイナンバー処理では秘密事項があるのでリースペースでなく事務所は必要。鍵のかかる金庫、事務員にも目に触れない場所での保管が必須。

小野江：行政では受益者負担の話は怎么样了？

岸：部屋の使用料金の話しは出ている、。

広瀬：議員の中ではそこまでの議論は出ていない。

小野江：無料では経費がパンクしないか？お金を得ることを考えないといけないのでは。

岸：コミセンは地域の会合で使うのは無料でいいと思う。

小野江：会費を払う市民活動もたくさんあり、ビジネスとの見分けが難しい。

平松：税金で＝全住民負担、各利用者自身で払う、どちらかで、その区分けの問題だ。

坂井：営業的なものがあるの？

植松：テニスコートなど県から市の管理に移ったとき、を手始めに有料化の議論が始まっている。将来は部屋も有料化するのではないかと心配している方がいた。市の回答は検討中

との話だったが今後とも有料化しませんとは言わなかった。

坂井：自分たちの施設の実感がある、無料とはそういう気持ちの良いこと。

牧島：先生を呼んで練習、レッスンなどでは月謝を取っている。月謝の額で営業活動か否かの区別も困難だから一律部屋代を徴収するのがやりやすい。

小野江：例えばどこか場所借りてフラダンス、場所代1時間で6000円、先生謝礼入れて月謝2000円だが、場所代なければ1000円で済む。それを営業行為と見るか。

水島：終わる前に一言、部会の在り方、何でも部会化することがいいのか討議して欲しい。部会でないやり方がいいと考えている方もあるのではないか。

植松：具体的な提案はありませんか。

水島：屋上屋ではないか、福祉部会にどのような方が参加してくるのかなども問題となる。

小野江：今後考えていく。例えば福祉部会で社協の仕事をそのままやることは意味ない。

植松：先日のネットワーク会議では災害時要援護者問題は社協でという問題でもない。あそこで取り上げたから情報共有も進んで、あそこであんなことやっているのかと理解が広がった。あれなどは社協だけではできないテーマ。

植松：2月の自治協連絡会次第に沿って話して終わります。

以上